

FASID アフリカセミナー 「アフリカ開発問題と TICAD 」

日時： 2003年6月17日(火) 13:00~18:00
場所：(財)国際開発高等教育機構(FASID)研修室
記録者：林田

【石川滋氏による報告】 「アフリカにおける貧困の罠と貧困削減戦略ペーパー」
〔資料1〕を参照。ポイントは以下のとおり。

- ・まず私はアフリカについては素人である。なぜ開発経済や開発政策の観点からアフリカに注目したのか 他の方々との共通意識だと思うが、皆さんの考えの位置づけになれば幸いである。
- ・話の中心はガーナの貧困削減にあるので、資料の冒頭部分は簡単に説明したい。

〔 .はじめに〕

- アジア諸国の開発は進み、ほとんど“卒業した”と言えよう。LICUS(低所得国)として3国(ラオス、カンボジア、ミャンマー)を残すのみとなった。
- 従来の成長支援中心から貧困緩和に置き換えられ、その中身はほとんどがアフリカへの適応を念頭に置いて考えられるようになった。新しい貧困緩和政策にも短所があり、その短所に対処すべく改善策においても、アフリカを念頭に置く必要がある。
- 成長支援 貧困緩和の切り替えを表す言葉「PRSP体制」。その有効性については問題を残している。
- 世銀のPPA (Participatory Poverty Assessment)方式の定性的調査(貧困の特徴を持つ地域に実際に足を伸ばして貧困の原因を調査)で印象を受けるのは、所得が低いほど貧困が落とし穴となり、出たくても出られないトラップになっていること。しかしマクロの提言の中に、PPAによって明らかになったその貧困の罠が示唆されていない。それに対して取り組むことが、ひと役かうための重要なステップではないか。
- ・私がよく知るベトナムのケースで考え、そこから得た経験をガーナ(特に貧困の厳しいサバナ地帯)に当てはめ、貧困脱却の打開方法とマクロの視点からどのように示唆しているかを中心に話す。(地域レベルのデータはまだないが、資料1のT8とT9のまとめ参照)

〔 . PRSP体制の志向する開発モデル〕

- PRSPはSALの延長線上にある。しかしこれには市場経済育成および産業・技術構築のステップが欠けている。貧困削減政策の法則では教育・保健を充実させればよいというが、貧困が真の目的であるなら、本当にそれだけでいいのだろうか。この課題をどう克服するか。

〔 .ベトナムの貧困研究からの示唆〕

- 1999年、世銀がPRSP策をまとめ、低所得国はPRSPを作成するよう通告されたが、ベトナムはこれに抵抗。それまでベトナムは成長本位で政策を行ってきた。そのおかげで所得は上がり、財政収入も増加したのだから、貧困削減に切り替えることはできないという理由。
- ベトナムの経済問題 メコンデルタ中心の南ベトナムと紅河中心の北ベトナムでは状況が異なる。貧困も同様に違った様相を見せている。
 - 輪中地帯(愛知県にも小さいものがあると聞く)
 - 土地なき農民が増えてきた
 - 戦時中に北から別の民族が流入し、高原の少数民族の形態が崩れた
 - ここで主に と で貧困トラップの状況が見られる(T5参照)。貧困に苛まれてのっぴきならない状況をいかに脱却するか・・・その方法として、賭けにでることを選ぶ。
 - Duyen Haiは海老の養殖に賭けた(成功の確率は50/50)。成功すればトラップから脱却、失敗すれば土地も財産も喪失。
 - 一方Chua Thanhは90%と確率の高い稲作農業とアヒルの養殖を選んだ。それは灌漑施設が公共

施設としてあったため、その公共施設投資により成功率の高い選択をできる幅が広がった。

- ・ ガーナは、開発経済が捉えてきた問題の中で非常に興味深い特色を持つ ベトナムでいうとメコンデルタ的な、輸出食物栽培のための開拓された新開地 ココア栽培と輸出。
- ・ 人口過剰による土地不足から（H・ルイスの）「余剰の吐け口理論」の典型ともいべきガーナにおいて、その植民地であった英国がココアを利用してお金を稼いできた。その後、次々に新しく出る政権にもココアが利用された。農民搾取に非難を受け、それを解決することがガーナを救出する道かと思われた。しかしそれでは救えなかった。
- ・ 流通政策のもう一つ向こうに、生産の問題があり、そのメカニズムが把握されていなかったのが貧困トラップに陥った原因であろう。（T8参照）
- ・ PPA調査（直接聞き込み調査）で話を引き出すにあたり、コミュニティ、さらにはディストリクトに分けた。ガーナのディストリクトには、
 - Rural North（北3州、いわゆるサバンナ地帯、ココア栽培では無視されていたところ）
 - Rural South（東と西、森林地帯、ココア栽培）
 - Urban の3つがある。
- ・ 別添資料T8とT9のうち、「貧困脱出はどのような条件からか」をT8（Static）で、一方「条件が変わる中で状況はどう変わるか」をT9（Dynamic）で示した。
- ・ サバンナ地域において、各家にさほど格差はなく、貧困はHouse Holdレベルではなく、コミュニティが貧困であるかどうかにある。そのコミュニティが貧困を解決できなければどうしようもない。しかし、サバンナ地域でダムを作れるわけもなく、Northでは不可能。そうなるとSouthが頑張っ工業化を目指せば、Northを救うことも可能だろう。
- ・ 実際、ガーナはかなりの混乱状態にある。ベトナムと比較してキャパの少ないことが懸念されるどころである。

以上